

クアラルンプール日本人学校（マレーシア）

帯広市立帯広第一中学校 教諭 益子 忠行

1 マレーシアについて

(1) マレーシアの地理と気候

「マレーシアから戻ってきました。」その言葉に戻ってくる言葉が、「マレーシアってどんな国なの？」と必ず返ってきます。私自身も、マレーシアに赴任が決まったときには、どんな国か全く分かりませんでした。あえて言うなら、社会で習った、ゴムの産地とプランテーションぐらいしか思い浮かばない。赴任が決まってから、慌ててどんな国なのかを調べる有様でした。

マレーシアは、アジア大陸の最南端マレーシア半島の南部を占める半島マレーシア（11州）と南シナ海をへだてたボルネオ島（カリマンタン島）の北西部を占める東マレーシア（2州）からなる熱帯の連邦国家です。面積は、約33万k㎡でそのうち70%は熱帯のジャングルでおおわれています。人種の構成はマレー系住民が約64%、中国系住民が25.1%、インド系住民が7.2%、その他（含外国人）3.7%となっています。半島マレーシアでは、北でタイ国境を接してアジア大陸と連なり、西は狭いマラッカ海峡（いいちこの宣伝でも使われたので、さぞかし素晴らしい海峡かと思ったのですが…非常に濁った水でした。）をはさんで、インドネシア領カリマンタン島の国境と接し、サバ州の北東部では、スルー海をへだててフィリピンに対しています。首都は、半島マレーシアのほぼ中央、西海岸よりに位置するクアラルンプール市です。

クアラルンプールは非常に近代的な都市であり、東京にいるような感じさえ受けます。シンボルであるペトロナスツインタワーは、近未来的な建物です。夜になると、建物が光り輝き、息をのむような美しさになります。ショッピングセンターも非常に充実しており、ブランドものからレストラン（吉野屋、味千ラーメンなど）、食料品に至るまで、何でもそろいます。特に、7月ぐらいになると、中東のお金持ちが、全身黒づくめの衣装を着た奥さんを連れて、買い物に来ている姿がよく見られます。

気候について、半島マレーシアは南シナ海とインド洋、東マレーシアは南シナ海に面しているため、アジア季節風の影響を受けて高温多湿で、降水量も多い。四季というものは認められませんが、次の3つの時期に分けることができます。

- ①北東モンスーン期（10月～2月） 南シナ海からの季節風「雨期」
- ②微風期（3月～4月） 2つの季節風の間 「最も高温多湿」
- ③南西モンスーン期（5月～9月） インド洋からの季節風「乾季」

ただし、年間を通じて、最低気温が約24度、最高気温約が約34度。日中は暑いのですが、夜や早朝にかけては風も吹き、涼しくなるので非常にしのぎやすくなります。熱帯特有のスクールは、4月～6月に多く、ものすごい雷と共に大粒の雨が激しく降ります。日本では、「地震・雷・火事・おやじ」とよく言われますが、マレーシアには地震が全くないので、雷の恐ろしさはすごいものでした。赴任2年目の時に、住んでいたコンドミニアムに雷が落ちました。光ったと思った瞬間に鼓膜が破れるぐらいの轟音を経験しました。その後、コンドミニアムから大きなサイレンがなり慌てふためきました。前が見えなくなるほどのスクール時の運転は、大変です。ほとんど感で運転しています。その中でも、タクシ

ー（タイヤがつるつる）は猛スピードで走りまわります。スコールの後は、気温もグッと下がり、爽やかでしのぎやすくなります。（寒さを感じるぐらいにもなります。）しかし、最近では、現地のマレーシア人に聞くと、気候がおかしいと言っていました。昔よりも、長雨（梅雨みたいな天気）が続いたりあったり、乾季の時期が遅れたりしているとのことでした。これも、地球温暖化の影響なのではないかと言っていました。

(2) 動植物について

日本では見ることの出来ない動物や昆虫を見られることも、マレーシアならではの経験でした。クアラルンプールには、「ZOO NEGARA」と言う動物園があり、マレードラ、マレーグマ、マレーバクなど見ることが出来ます。特にマレーバクは、体色が白と黒でちょうど「腹掛け」をかけたように、腹の部分が白色になっています。夜行性のため、昼間は眠っていますが、暗くなってから餌である水草や果実、葉を探して長く伸びた口先で器用に食べます。また、バクは「夢を食う動物」とかその独自のすがたから、昔、神様が色々な動物をつくり、最後に残った物を寄せ集めてつくり上げた動物であるとか、多くの言い伝えをもっています。東マレーシアにあるクチンでは、「セメンゴ・ワイルドライフ・リハビリセンター」というオランウータンを保護する施設があり、半野生のオランウータンを見ることが出来ます。オランウータンは、マレー語で「森の人」という意味で、その風貌は人間によく似ています。昼間に活動し、夜は樹の上に作った巣で休みます。以外と凶暴で、食べ物や光る物（ペットボトルなど）を身につけていると、襲ってくる場合があります。そのため、受付でチェックを受けて施設の中に入ります。8:30が餌付けの時間になっており、運が良ければ見られることが出来ます。私は、運良く、餌付けの前の時間に目の前に現れてくれました。子供を生んだばかりのお母さんのオランウータンでした。自分の2, 3mに近づいてきたときには、非常に迫力がありました。子供のオランウータンは、いろいろなものに興味があるらしく、目をきょろきょろさせながら、周りを見ていました。人間の赤ちゃんに非常によく似ていました。ダーウィンの進化論を目の前で見られたような気がします。



昆虫に関しては、さすがジャングルと言うことで、非常に種類が多いです。日本から来ていた高校の先生（マラヤ大学の先生）は、昆虫採集を趣味にしていたのですが、マレーシアには図鑑に載っていない昆虫もいると言っていました。私自身も東マレーシアで、マレーシアの国蝶である、ラジャブルックに出会いました。地元のガイドに聞いたところ、ラジャブルックは、塩気を含んだ液を好むので、水たまりなどに多く集まっていました。世界で一番大きな花であるラフレシアを見ることが出来ます。私が見たときには、咲いてから3日目だったそうなので、特に嫌なおいはしませんでした。本来であれば、食べのもの腐ったにおいがするそうです。ジャングルの奥にある、非常に珍しい花という印象があります。ガイドに、「ラフレシアが今日咲いたので、あなたは非常にラッキーだ」などと言われ、「是非見に行きたい」と言いましたが、連れて行かれたところは、観光客用にラフレシアを栽培している場所でした。しかも、入場料は50RM（日本円で約1500円）という非常に高価な値段でした。



2 クアラルンプール日本人学校について

(1) 学校の施設・環境について

学校の名称は長く「在マレーシア日本国大使館附属・クアラルンプール日本人学校」と言います。非常に長いために、高校受験の面接で、生徒たちは必死に覚えていました。また、調査書にも書くことになるので、なかなか手応えのある名称です。

学校の施設は、各教室にエアコン完備（たまに故障して、散々な目に遭うこともありますが・・・）、中学部には 50m プール（私も毎日 2km 泳いでいました）、芝一面のグラウンド、広い体育館など、非常に恵まれた環境の中で、日々過ごすことが出来ます。PC の環境（PC を管理している素晴らしい先生がいました）も素晴らしく、各教職員に 1 台ずつ PC が割り当てられ、会議などは全て LAN でつながっているため、PC の画面上で行います。成績処理も全て PC で行います。海外は、生徒の転入・転校が多いため、こうした書類の処理が、全て PC で行えることは大変便利なことでした。授業の様子や行事などは、ホームページにすぐに UP され毎日の学校の様子分かるように整備されています。

ICT 環境が非常に充実しており、デジタルカメラ、実物投影機、プロジェクター、ノートパソコン（無線でインターネットにつながります）、電子黒板などを授業で活用することが出来ます。授業で ICT を取り入れる研修なども行い、積極的に ICT を取り入れる活動を行いました。また、授業だけでなく、保護者を集めての進路指導説明会や高等学校説明会などにも利用しました。

(2) 学校教育目標・教育の重点

たくましいからだ、ゆたかな心、優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成

①教育実践力の向上

「教えることは学ぶこと」の姿勢、研修意欲と向上心、各時間の「ねらい」を明確にした授業とそのための教材研究・興味・関心を高め、積極性を引き出す指導方法、教材の工夫・開発、授業公開、教科部会の活用、課題の交流、積極的な教育研究、新しい教育ツールを活用した授業。

②確かな学力の定着

学力実態の把握と課題分析、児童・生徒の努力、学習の成果と課題の評価、基礎・基本の定着と発展的な学習法の体得、思考力、判断力など PISA 型学力を伸ばす指導、最新の進路情報の収集、中学 3 年での「コース別学習」の充実、一人ひとりの個性の最大限の伸長を図る進路指導。

③たくましい身体づくり

健康増進への具体的取り組み、発達段階に応じた長所や課題の把握、身体づくりの目標の設定、望ましい生活習慣、食習慣などへの意識の高揚、体力を高め合う雰囲気作り、最後までやり遂げる達成感、体力向上への努力の積み重ね、スポーツテスト、水泳検定など、様々な体力測定の「ものさし」の工夫、児童・生徒の努力と成長の承認・意欲付け。

④ゆたかな心の育成

日常的な挨拶や言葉遣い、基本的な生活習慣や良いマナーの定着、ゆたかな心の育成、道徳の授業を通じて、人としての生き方、あり方を示しながらの教師自身の「率先垂範」、「自他の尊重」、いじめなどを許さない情操の育成、学校行事、児童生徒会（ラ会）活動、サークル活動の充実と自主的態度・責任感の醸成。

⑤国際理解教育の推進

現地校との交流、企画、実施、校外活動や社会（科）見学、異なる文化への興味と自他の文化を共に尊重しようとする態度の育成、英語やマレーシア語に親しみ、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度の育成、教員と EC スタッフとの積極的な連携、アイディアの交流、現地企業の関係者や外部講師等の積極的活用。

(3) 特色のある教育（中学部）

①EC（English Conversation）

現地の英語の先生が教える英会話の授業です。周 2 時間行われます。授業中は全て英語での会話です。まず、教室に入るとき「Teacher May I come in?」という会話からスタートです。生徒の実力に合わせて 3 クラスに分かれています。一番上のクラスでは、非常にレベルの高い英会話が行われており、ゲームや歌を交えながら楽しく授業に取り組んでいました。英語を使った劇（ドラマ）なども盛んに行われていました。私も、たまに授業に参加させてもらったりしましたが、英語で授業を楽しくするための工夫がたくさんされていました。ゲームは、EC の先生の手作りのゲームがよく行われます。子供たちの興味を引くような工夫がされており、語学というものは、楽しみながら学ぶものだということを、改めて考えさせられました。チャンツ（早口言葉のようなもの）も取り入れており、すばやくきれいに発音することを目的としています。朝の朝会を使って、各学年で発表する機会を設け、人前できちんと発音できる力を身につけるような取り組みもされていました。



②イマージョンスイミング

現地のスイミングコーチで水泳の授業を行います。しかも、コーチはマレーシアのナショナルチームの選手を指導している優秀なコーチです。もちろん話す言葉は全て英語です。中学部では、50M プールという恵まれた環境の下でできます。ウォームアップが 200M という結構過酷な授業です。学校独自の水泳検定を行っており、クロール、平泳ぎ、背泳ぎと 3 種類の泳法を学習します。合格すると認定バッジがもらえます。年に一度、授業の結果を試す校内水泳大会も行われます。

③国際交流

現地の学校と交流を行います。各学年で計画をし、1 年生は訪問、2、3 年生は日本人学校へ招

待します。はじめは、なかなか、コミュニケーションをとることに苦労しますが、時間がたてば、積極的に話しかけたりするようになります。大人とは違い、生徒たちは様々な活動を通して、短い時間で心を通わします。生徒たちが成長していくことに、本当に驚きます。同時に、コミュニケーションの大切さ、言葉の大切さ、お互いに理解することの重要性を知ることもできる貴重な経験となりました。

○中学部 1 年

アラムシャー校に訪問しました。アラムシャー校は国立学校で非常に優秀な学校です。日本語を学んでいる生徒もいます。バティック染め、マレー風の作り、ケツウパ（草で編んだ物入れ）作りを教えてもらいました。一緒にマレー料理も食べ、さらに仲良くなれました。同じように手で食べることも、大切な文化理解です。今回の訪問のお礼にしおり人形と一緒に作りプレゼントしました。



○中学 2 年生

スリ・プテリ校 6 2 名の生徒を迎えて国際交流を行いました。習字、折り紙、水墨画、ドッジボールなどのアクティビティーを行い、スリ・プテリの生徒のみなさんにマレーダンスを教えてもらいました。調理実習では、お好み焼きとカレーライスを協力して作り、一緒に美味しくいただきました。閉会式では、「南中ソーラン」と「マレーダンス」の競演、そして「夢の世界を」を一緒に歌いました。



○中学 3 年生

地元の 4 校を招待して、国際交流会を行いました。日本の伝統である 4 つの踊り（東京音頭、花笠音頭、大東京音頭、お日様音頭）を教えました。最初は、なかなか、コミュニケーションがとれませんでした。体を動かしながら英語を使うと、相手の生徒さんたちも、笑顔で答えてくれました。男子は、盆踊りに向けて本番同様、真剣に集中してたたきました。ここ、日本人学校ならではの、地元の人たちとの交流です。最後はみんなで大きな円になって、楽しく踊ることができました。

④カンポンホームステイ

夏休みに入るとすぐに、カンポン（田舎）へのホームステイがあります。2 年目に生徒の引率として体験することが出来ました。小学校 5・6 年生 84 名、中学生 65 名の参加があり、マレーシアの家庭に宿泊し、共に生活をする中で、マレーシアの伝統や文化、習慣などを学びます。セランゴール州にある、セパンバングリスという村を訪れました。セパンというと、F1 のサーキット場があるところで有名なのですが、さらにそこから、車で約 40 分ぐらいかかるところだった

と思います。この村全体で、海外からのホームステイを受け入れてくれます。各家の前には青い看板で「HOME STAY」と書かれてある家がたくさんありました。

日程概要

7月26日(土)

- 9:00 JSKL 出発
- 11:00 セパン バングリス到着
- 11:15 歓迎会、開会式
- 12:30 ホストファミリーの家へ

7月27日(日)

- 20:00 文化交流会
- 22:30 文化交流会終了、各家庭へ

7月28日(月)

- 9:00 現地校訪問
- 11:30 昼食
- 12:15 閉村式
- 13:00 出発
- 15:00 JSKL 到着・解散



村長さんの家で全体集合写真



お世話になった家の人々

○ 庭の果物食べ放題

とにかく家の敷地は広く、どこからどこまでが庭なのか分からない状態です。そんな、庭には数々の果物がなっています。(特に手入れをしているとか、育てているとかではありません) 日本ではお目にかかれない食べ物が、これ見よがしになっているのです。私たちが、訪れた時期はちょうど、ランブータンという一見、薄気味悪い果物がたくさんなっていました。赤い実に、緑のとげとげが生えている果物です。しかし、皮をむくときれいな白い実が出てきます。ちょうどライチのような感じです。甘くてとてもおいしい実です。出会う子供たちが、



「あのランブータンが一番おいしいよ」と教えてくれました。でも、その実は人の家になっている実です。マレーシア人は、全然気にせず取って食べます。本当に、おおらかな人たちです。

○ 朝から夜まで食べ続け

マレーシアの方々は、本当によく食べます。普段の挨拶も「おはよう」「こんにちは」という言葉が先ではなく、「もうご飯食べたか? (マレーシア語で、スタマカンと言います)」ホームステイでの、最大の歓迎はやはり、食べ物でおもてなしをすることです。到着後全体で昼食をとりいよいよ、ホームステイの方が迎えに来てくれました。高床式の家で、



床の下のスペースでおじいさんがソファでくつろいでいました。私たちもソファに座り、「これからよろしくお願いします」と挨拶したとたんに、おやつが出てきました。揚げたバナナとタピオカのチップス（両方とも高カロリー）です。「まずは、食べる」というのがマレーシアです。その後、ボリュームのある夕食をいただき、心の底から満腹感を感じ、そろそろ寝ようかなあと思ったら、下の階から声が聞こえます。「夜食ができたわよ」というお母さんの声です。せっかくだから、いただかなくてはと思い、下の階に降りていくと、とっても甘い紅茶と甘いケーキでした。食べ物でおもてなしをするというマレーシア、ここまで来ると1日5食は、満腹中枢を破壊していきます。私たちはこのことを、マカン（マレーシア語でご飯のこと）攻撃と言わざるを得ませんでした。



○ 驚きのマンディー

マンディーとは、水浴びのことです。お風呂は、浴槽に水が張ってあるだけであり、その水で体を洗います。（清めますと言った方がいいでしょうか）私がお世話になった家も、当然シャワーなどはなく、マンディーをすることになります。非常に暖かいマレーシアですが、この水は本当に冷たく、桶でかぶると心臓が、バクバク言うほどです。でも、なれてくると不思議と爽快な気分になります。二日目の早朝、起きてから早速水浴びをしました。浴槽の横は大きな壁になっており、蛇口がついています。そこに水がたまっているため、蛇口をひねれば、水が出てくるという仕組みです。水が少なくなってきたので、蛇口をひねりました。ふと、その水がたまっているところが、どのようになっているのか気になり、上からのぞいたところ、そこには、魚がいました。私たちは、魚の泳いでいる水で、体を洗っていたのです。主に「あの魚はどうするの」と聞いたところ、「もちろん食べるのさ」と予想通りの答えが返ってきました。丸一日、魚を飼っている水で、体を洗っていたとは、世の中、知らぬが仏です。（でも、ぬるぬるしないのは、やはりイスラム教の教え？）

○ 激しい昼寝

私がお世話になった家には、生まれたばかりの赤ん坊がいました。マレーシアの子供たちは、目がくりくりして、とても愛らしい顔をしています。赤ん坊が寝るためのものは、天井から、布の袋がぶら下がっています。まるで、ハンモックのようです。しかし、このハンモックは、バネのようなものでつながれており、上下に激しく動きます。お母さんも、手で激しく上下に揺らします。「この子は絶対に船酔いはしないだろうなあ」と思いながら、その激しい動きを見ていました。さらに、驚きは、お母さんの子守歌です。大きな声ではっきりと歌います。まさに、カラオケ状態です。こんなうるさくて、子供が寝るのかなあと思いながら、布をのぞいてみると、すやすやとお休みしていました。南国の子供のあやし方は、激しく情熱的でした。



○ 文化交流会での結婚式

2日目の夜の文化交流会で、引率の先生の2名に模擬結婚式を行ってくれます。マレーの伝統的な結婚衣装を着せてもらえ、新郎新婦の前で、マレーダンスも披露してくれます。私も、飛び入りでそのダンスに参加させてもらいました。女性の方が丁寧に教えてくれ、とても楽しいひとときでした。終わった後、私のホストファミリーのおじいさんが、「おまえのダンスはよかった」と褒めてくれました。交流とは、恥ずかしがらずに挑戦することであると学んだような気がしました。



まだまだ、書ききれない面白エピソードがあるのですが、全部書いているときりがないので、このぐらいにしておきます。マレーシアの家庭を、そのまま味わえたことは、とても貴重な経験になりました。

⑤ コース別学習

中学3年生の受験の時期を迎えると、三つのコースに分かれて学習します。この時期は、日本に帰国して受験をする（一人平均3~4校を受験する）ため、自分たちで計画表を作り、授業を選択します。インターナショナルスクールコースは、ECの先生方が午前中ずっと英語を教えてくれます。もちろん、授業中はずっと英語で会話をするため、短い時間ではありますが、生徒たちが英語力が身に付いた実感できるクラスです。

・ 受験前コース

受験を控えている生徒を対象に、高校入試に向けての対策を行う。

・ 高校準備コース

進学する日本の高校が確定した生徒を対象に、高校1年生程度の学習を行う。

・ インターナショナルスクールコース

マレーシアのインターナショナルスクールを受験する生徒を対象に、英語力向上を目指した授業を行う。

⑥ 日本人墓地清掃

JSKLでは、年に3回、日本人墓地の清掃を行います。市街地のビル群の近くに日本人墓地があります。日本とマレーシアの架け橋として活躍された先代の方々や戦争で亡くなった方のお墓が、日本人墓地には並んでいます。落ち葉を拾ったり雑草を取り除いたり、児童生徒と先生と一緒に日本人墓地をきれいにしていきます。いろいろな形のお墓あり、1年中、花と緑に囲まれています。学年別に清掃場所を分担をし、日が昇るにつれて暑くなりますが、一生懸命働きます。最後に、線香とお花を1つ1つのお墓にお供えします。日本の線香とは違い、火をつけると、激しい煙を上げて燃えます。マレーシアの地に眠る先代の方々を想い、子どもたちは日本人墓地を大切にしています。



(4) マレーシアでの生活について

①住居（コンドミニウム）について

治安が良いとはいえ、そこは海外ですのでセキュリティーがしっかりしたコンドミニウムで生活をします。広さは3LDKでシャワー室、トイレが2つあります。スポーツジムやプールなどの施設もあり日本では考えられません。私は、20階に住んでいました。チャイニーズニューイヤーや独立記念日などで、市内の各場所から上がる花火がとてもきれいに見えました。

しかし、どんなにセキュリティーがしっかりしていても、空き巣に入られる部屋も何件かありました。話を聞いてみると、犯人がガードマンであったという怖いことも起こります。海外での生活は、「自分の身は自分で守る」というのが原則です。

②買い物について

日系の企業 JASCO があり、日本の食材はほとんどそろいます。ただ、日本の製品は割高です。JASCO のスーパーでは、自社ブランドのトップバリューという商品があり、安く買うことが出来ます。地元の商品は、非常に安いです。日本の物価の約3分の1です。南国ですから、果物の種類は非常に豊富です。パイヤやマンゴ、マンゴスチンなど高級な果物を破格の値段で買うことが出来ます。果物の王様、ドリアンは、マレーシア人の大好物です。そのため、スーパーの一番前で売っています。好きな人にはたまらないのですが、私にとっては、スーパーに入る前に、息を止める事になってしまいました。イスラムの国であるため、豚肉は、特別なコーナーで売っています。

TTDI という地区では、マーケットがあり、新鮮な肉や野菜などを手に入れることが出来ます。その中にある、豚肉屋さんには様々な部位を売っています。バイヤーにマイケルさんという方がいて、「しゃぶしゃぶ」「ショウガ焼き」など、たどたどしい日本語で言ってくれます。話によると、駐在員の奥様方が、長年の間、マイケルさんに、豚肉の切り方や必要な部位などを教えて鍛え上げたそうです。やはり、食に対する意欲は、海外に言っても変わらないこと。妻というのは、たくましい事を学べた気がします。

夜になると、曜日ごとに各地区でナイトマーケットが開かれます。鳥を丸ごと売っていたり、牛の頭が丸ごと置かれていたりします。非常に安く食材を仕入れることが出来ます。B級グルメの屋台もたくさん出るので、歩くだけで楽しめます。



コンドミニウム前のガードハウス



ペレンダから見える夜景



TTDI のマーケット



桜餅も手作りできます



果物の王様、ドリアン